

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅠ」		担当者氏名		深見ゆかり	
学 科		こども未来学科 小学校/幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年		授業時間数	60時間
開講学年		1年					
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする					
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う					
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	(個) 実習曲を弾きうたいにする		
	2	(個) 拍の流れを感じて弾く		17	弾きうたいの伴奏法を学ぶ		
	3	正確なリズムで弾く		18	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	4	(グ) 読譜力をつける		19	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	5	単音伴奏で弾く		20	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する		
	6	(個) 実習曲の練習		21	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	7	ハ長調の理解		22	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	8	旋律と伴奏を合わせて弾く		23	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	9	(グ) コードの基礎、和音伴奏で弾く		24	(個) 余裕を持って弾きうたいができるようにする		
	10	(個) 実習曲の練習		25	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	11	ヘ長調の理解		26	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	12	(グ) コードネームについて		27	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	13	カデンツについて		28	総復習		
	14	豊岡課題確認レッスン		29	総復習		
	15	総復習		30	総復習		
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％					
使用テキスト等		「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学					
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。					

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅡ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科		こども未来学科				
開講学年		小学校幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間
		2年				
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	豊岡課題確認レッスン	
	2	(個) 実習曲を選択		17	(個) 季節・行事の曲を選択	
	3	旋律と伴奏のバランスを考えて演奏する		18	(グ) いろいろな伴奏形	
	4	(グ) 実習曲の取り扱い		19	リズムパターンを学ぶ	
	5	各自伴奏を作る		20	リズムパターンを学ぶ	
	6	(個) 曲想や強弱をつけて演奏する		21	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	7	(グ) 実習曲の取り扱い		22	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	8	各自伴奏を作る		23	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	9	各自伴奏を作る		24	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	10	(個) 奏法の記号を表現しさまざまな表情をつける		25	(個) 曲の感じをつかみふさわしい速さで演奏する	
	11	(グ) スケール、カデンツの復習		26	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	12	(グ) スケール、カデンツの復習		27	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	13	(グ) スケール、カデンツの復習		28	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	14	総復習		29	総復習	
	15	総復習		30	総復習	
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％				
使用テキスト等		「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅢ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科 小学校/幼稚園教諭・保育士コース		開講期	通年	授業時間数	60時間
開講学年		3年				
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション			16	(個) 教育：小学校共通教材の取り扱い 未来：アニメソング、卒園の歌
	2	(個) 遊び歌、季節・行事の歌より選択			17	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法
	3	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			18	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法
	4	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			19	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法
	5	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			20	(個) リズムにのって楽しく表現できるようにする
	6	(個) 音楽の仕組みの理解			21	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法
	7	曲の形式の理解			22	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法
	8	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			23	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法
	9	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			24	(個) 正確に表現豊かに余裕を持って弾きうたいをする
	10	(個) 曲にあった楽想を理解し、表現豊かに演奏する			25	旋律伴奏と両手コード伴奏ができる
	11	(グ) コードとカデンツの確認			26	(グ) スケールとカデンツのまとめ
	12	(グ) コードとカデンツの確認			27	(グ) スケールとカデンツのまとめ
	13	(グ) コードとカデンツの確認			28	総復習
	14	豊岡課題確認レッスン			29	総復習
	15	総復習			30	総復習
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％				
使用テキスト		「こどものうた伴奏大全集」自由現代社「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社				
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもの保健		担当者氏名	船越 利代子	
学 科	こども未来学科					
開講学年	小学校/幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間	
	2年					
授業目標		1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画・及び評価について学ぶ。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について具体的に学ぶ。 4. 救急時の対応や事故防止,安全管理について具体的に学ぶ。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。				
授業概要		子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画や評価を行う。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えるとともに,現代社会における心の問題や地域保健活動等について学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	保健活動の計画及び評価	16	子どもの生活習慣と心身の健康		
	2	保健計画の作成と活用	17	子どもの発達援助と保健活動		
	3	保健活動の記録と自己評価	18	子どもの疾病と適切な対応		
	4	保健活動の記録と自己評価	19	子どもの疾病と適切な対応		
	5	子どもの保健に係る個別対応	20	体調不良時 傷害が発生した場合の対応		
	6	集団の子どもの健康と安全・衛生管理	21	感染症の予防と対策		
	7	子どもの保健と環境	22	感染症の予防と対策		
	8	子どもの健康と生活の理解	23	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応		
	9	養育者の環境・児童虐待の理解と防止	24	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応		
	10	養育者の環境 家族支援	25	乳児への適切な対応		
	11	保健における養護と教育の一体性	26	傷害のある子どもへの適切な対応		
	12	保健における養護と教育の一体性	27	障害のある子どもへの適切な対応		
	13	子どもの健康増進と保育の環境	28	事故防止及び健康安全管理		
	14	子どもの健康増進と保育の環境	29	救急処置 救急蘇生法		
	15	子どもの生活習慣と心身の健康	30	まとめ		
成績評価基準		定期試験に基づき授業内容の把握状況等を判断し成績評価とする				
使用テキスト		『こどもの保健』豊岡短期大学通信教育部				
実務経験		当該教員は、看護師として病院勤務の経験がある				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもの発達と家庭支援		担当者氏名	中山 恵美子	
学 科	こども未来学科					
開講学年	小学校/幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間	
		2年				
授業目標		・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し,初期経験の重要性,発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解すると共に,親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し,こどもとその過程を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況を課題について理解する。				
授業概要		子育て家庭を取り巻く様々な社会的状況について把握し,保護者支援の在り方等を明らかにしていく。問題を抱える家庭に対する支援等,社会的家庭に関する基本的な知識・家庭支援の専門性等について学ぶ				
授 業 計 画 表	1	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	16	多様な家庭とその理解		
	2	乳幼児期から学童期前期にかけての発達	17	特別な配慮を要する家庭		
	3	学童期後期から青年期にかけての発達	18	特別な配慮を要する家庭		
	4	学童期後期から青年期にかけての発達	19	こどもの精神保健		
	5	成人期・老年期における発達	20	こどもの精神保健		
	6	成人期・老年期における発達	21	こどもの精神保健とその課題		
	7	家族・家庭の意義	22	こどもの精神保健とその課題		
	8	家族・家庭の機能	23	こどもの生活・生育環境		
	9	親子関係・家族関係の理解	24	こどもの生活・生育環境		
	10	子育ての経験と親としての育ち	25	こどもの生活・生育環境とその課題		
	11	子育て家庭に関する現状と課題	26	こどもの生活・生育環境とその課題		
	12	子育て家庭に関する課題	27	こどもの心の健康		
	13	子育てを取り巻く社会的状況	28	こどもの心の健康に関わる問題		
	14	ライフコースと仕事・子育て	29	こどもの心の健康に関わる問題		
	15	ライフコースと仕事・子育て	30	全体のまとめ		
成績評価基準		定期試験に基づき授業内容の把握状況等を判断し成績評価とする				
使用テキスト等		担当教員が独自資料を配布する				
実務経験		当該教員は、スクールカウンセラーとして学校での勤務経験がある				

授業概要（シラバス）

科目名		乳幼児保育Ⅱ		担当者氏名	川崎三津子	
学 科	こども未来学科					
開講学年	小学校/幼稚園教諭・保育士コース	開講期	半期	授業時間数	30時間	
	2年					
授業目標		3歳児未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。				
授業概要		乳幼児の基本 乳幼児における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際 乳幼児における配慮の実際 乳幼児保育における計画の実際				
授 業 計 画 表	1	保育の目標の明確化 養護と教育、養護（生活の援助）の内容、体験と遊びの内容				
	2	保育の形態と方法 1・2歳児の一日の流れ				
	3	健康・安全 健康管理 環境と安全 事故予防と安全対応				
	4	健康・安全 疾病異常の対応 健康診断 予防接種				
	5	乳幼児の遊び 0歳児の遊びの特徴 手作りおもちゃ作成				
	6	乳幼児の遊び 1～2歳児の遊び 機能を育てる玩具 手作りおもちゃ				
	7	演習 手作りおもちゃで実演 絵本・紙芝居の読み聞かせ実演				
	8	演習 保育園見学 保育の活動内容や連絡帳等必要な書類を見て学ぶ レポート作成				
	9	乳児保育の計画 保育の記録と評価				
	10	保育計画 0歳の保育計画の実際 0歳児の個別計画の実際				
	11	1歳児の保育計画 月の指導計画の実際				
	12	2歳児の保育計画 週の指導計画の実際				
	13	保育日誌 家庭連絡帳の実際				
	14	乳児保育と子育て支援				
	15	今後の課題 社会の期待にどう応えるか（理想の保育園）				
成績評価基準		定期試験に基づき授業内容の把握状況等を判断し成績評価とする				
使用テキスト等		乳幼児保育 豊岡短期大学通信教育部 0・1・2歳児の心の育ちと保育 乳児保育の基本				
実務経験		当該教員は、保育士として保育園での勤務経験がある				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅠ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科		こども未来学科 幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間
開講学年		1年				
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	(個) 実習曲を弾きうたいにする	
	2	(個) 拍の流れを感じて弾く		17	弾きうたいの伴奏法を学ぶ	
	3	正確なリズムで弾く		18	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	4	(グ) 読譜力をつける		19	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	5	単音伴奏で弾く		20	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	6	(個) 実習曲の練習		21	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	7	ハ長調の理解		22	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	8	旋律と伴奏を合わせて弾く		23	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け	
	9	(グ) コードの基礎、和音伴奏で弾く		24	(個) 余裕を持って弾きうたいができるようにする	
	10	(個) 実習曲の練習		25	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	11	ヘ長調の理解		26	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	12	(グ) コードネームについて		27	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	13	カデンツについて		28	総復習	
	14	豊岡課題確認レッスン		29	総復習	
	15	総復習		30	総復習	
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％				
使用テキスト等		「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅡ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科					
開講学年	幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年		授業時間数	60時間
	2年					
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	豊岡課題確認レッスン	
	2	(個) 実習曲を選択		17	(個) 季節・行事の曲を選択	
	3	旋律と伴奏のバランスを考えて演奏する		18	(グ) いろいろな伴奏形	
	4	(グ) 実習曲の取り扱い		19	リズムパターンを学ぶ	
	5	各自伴奏を作る		20	リズムパターンを学ぶ	
	6	(個) 曲想や強弱をつけて演奏する		21	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	7	(グ) 実習曲の取り扱い		22	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	8	各自伴奏を作る		23	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	9	各自伴奏を作る		24	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	10	(個) 奏法の記号を表現しさまざまな表情をつける		25	(個) 曲の感じをつかみふさわしい速さで演奏する	
	11	(グ) スケール、カデンツの復習		26	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	12	(グ) スケール、カデンツの復習		27	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	13	(グ) スケール、カデンツの復習		28	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	14	総復習		29	総復習	
	15	総復習		30	総復習	
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％				
使用テキスト等		「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅢ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科 幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年		授業時間数	60時間
開講学年	3年					
授業目標	保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする					
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う					
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	(個) 教育：小学校共通教材の取り扱い 未来：アニメソング、卒園の歌	
	2	(個) 遊び歌、季節・行事の歌より選択		17	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	3	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方		18	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	4	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方		19	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法	
	5	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方		20	(個) リズムにのって楽しく表現できるようにする	
	6	(個) 音楽の仕組みの理解		21	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	7	曲の形式の理解		22	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	8	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方		23	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法	
	9	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方		24	(個) 正確に表現豊かに余裕を持って弾きうたいをする	
	10	(個) 曲にあった楽想を理解し、表現豊かに演奏する		25	旋律伴奏と両手コード伴奏ができる	
	11	(グ) コードとカデンツの確認		26	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	12	(グ) コードとカデンツの確認		27	(グ) スケールとカデンツのまとめ	
	13	(グ) コードとカデンツの確認		28	総復習	
	14	豊岡課題確認レッスン		29	総復習	
	15	総復習		30	総復習	
成績評価基準	実技試験点80％ 授業状況点20％					
使用テキスト	「こどものうた伴奏大全集」自由現代社「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社					
実務経験	当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。					

授業概要（シラバス）

科目名		こどもの保健		担当者氏名	船越 利代子	
学 科	こども未来学科					
開講学年	幼稚園教諭・保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間	
	2年					
授業目標		1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画・及び評価について学ぶ。 2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。 3. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について具体的に学ぶ。 4. 救急時の対応や事故防止,安全管理について具体的に学ぶ。 5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。				
授業概要		子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画や評価を行う。子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えるとともに,現代社会における心の問題や地域保健活動等について学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	保健活動の計画及び評価	16	子どもの生活習慣と心身の健康		
	2	保健計画の作成と活用	17	子どもの発達援助と保健活動		
	3	保健活動の記録と自己評価	18	子どもの疾病と適切な対応		
	4	保健活動の記録と自己評価	19	子どもの疾病と適切な対応		
	5	子どもの保健に係る個別対応	20	体調不良時 傷害が発生した場合の対応		
	6	集団の子どもの健康と安全・衛生管理	21	感染症の予防と対策		
	7	子どもの保健と環境	22	感染症の予防と対策		
	8	子どもの健康と生活の理解	23	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応		
	9	養育者の環境・児童虐待の理解と防止	24	個別的な配慮を必要とする子どもへの対応		
	10	養育者の環境 家族支援	25	乳児への適切な対応		
	11	保健における養護と教育の一体性	26	傷害のある子どもへの適切な対応		
	12	保健における養護と教育の一体性	27	障害のある子どもへの適切な対応		
	13	子どもの健康増進と保育の環境	28	事故防止及び健康安全管理		
	14	子どもの健康増進と保育の環境	29	救急処置 救急蘇生法		
	15	子どもの生活習慣と心身の健康	30	まとめ		
成績評価 基準		定期試験に基づき授業内容の把握状況等を判断し成績評価とする				
使用テキ スト等		『こどもの保健』豊岡短期大学通信教育部				
実務経験		当該教員は、看護師として病院勤務の経験がある				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅠ」		担当者氏名		深見ゆかり	
学 科		こども未来学科 スポーツ保育士コース	開講期	通年		授業時間数	60時間
開講学年		1年					
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする					
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う					
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	(個) 実習曲を弾きうたいにする		
	2	(個) 拍の流れを感じて弾く		17	弾きうたいの伴奏法を学ぶ		
	3	正確なリズムで弾く		18	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	4	(グ) 読譜力をつける		19	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	5	単音伴奏で弾く		20	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する		
	6	(個) 実習曲の練習		21	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	7	ハ長調の理解		22	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	8	旋律と伴奏を合わせて弾く		23	(グ) 2年次の実習曲の伴奏付け		
	9	(グ) コードの基礎、和音伴奏で弾く		24	(個) 余裕を持って弾きうたいができるようにする		
	10	(個) 実習曲の練習		25	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	11	ヘ長調の理解		26	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	12	(グ) コードネームについて		27	(グ) スケールとカデンツのまとめ		
	13	カデンツについて		28	総復習		
	14	豊岡課題確認レッスン		29	総復習		
	15	総復習		30	総復習		
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％					
使用テキスト等		「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学					
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。					

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅡ」		担当者氏名	深見ゆかり	
学 科	こども未来学科					
開講学年	スポーツ保育士コース	開講期	通年	授業時間数	60時間	
	2年					
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする				
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション		16	豊岡課題確認レッスン	
	2	(個) 実習曲を選択		17	(個) 季節・行事の曲を選択	
	3	旋律と伴奏のバランスを考えて演奏する		18	(グ) いろいろな伴奏形	
	4	(グ) 実習曲の取り扱い		19	リズムパターンを学ぶ	
	5	各自伴奏を作る		20	リズムパターンを学ぶ	
	6	(個) 曲想や強弱をつけて演奏する		21	(個) 歌詞を理解して弾き方を工夫する	
	7	(グ) 実習曲の取り扱い		22	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	8	各自伴奏を作る		23	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	9	各自伴奏を作る		24	(グ) 両手コード伴奏の導入	
	10	(個) 奏法の記号を表現しさまざまな表情をつける		25	(個) 曲の感じをつかみふさわしい速さで演奏する	
	11	(グ) スケール、カデンツの復習		26	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	12	(グ) スケール、カデンツの復習		27	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	13	(グ) スケール、カデンツの復習		28	(グ) 両手コード伴奏を作る	
	14	総復習		29	総復習	
	15	総復習		30	総復習	
成績評価基準		実技試験点80% 授業状況点20%				
使用テキスト等		「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社「こどもと音楽表現」豊岡短期大学				
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。				

授業概要（シラバス）

科目名		こどもと音楽表現「ピアノⅢ」		担当者氏名		深見ゆかり			
学 科		こども未来学科	開講期	通年		授業時間数		60時間	
スポーツ保育士コース									
開講学年		2年							
授業目標		保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識の習得を到達目標とする							
授業概要		ピアノ奏法を学び、弾きうたいや伴奏法への応用を中心に各自習得度に応じた指導を個人レッスンとグループレッスンにて行う							
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション			16	(個) 教育：小学校共通教材の取り扱い 未来：アニメソング、卒園の歌			
	2	(個) 遊び歌、季節・行事の歌より選択			17	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法			
	3	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			18	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法			
	4	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			19	(グ) 教育：小学校1～3年教材 未来：旋律伴奏の奏法			
	5	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			20	(個) リズムにのって楽しく表現できるようにする			
	6	(個) 音楽の仕組みの理解			21	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法			
	7	曲の形式の理解			22	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法			
	8	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			23	(グ) 教育：小学校4～6年教材 未来：両手コード伴奏の奏法			
	9	(グ) 旋律伴奏と両手コード伴奏の使い方			24	(個) 正確に表現豊かに余裕を持って弾きうたいをする			
	10	(個) 曲にあった楽想を理解し、表現豊かに演奏する			25	旋律伴奏と両手コード伴奏ができる			
	11	(グ) コードとカデンツの確認			26	(グ) スケールとカデンツのまとめ			
	12	(グ) コードとカデンツの確認			27	(グ) スケールとカデンツのまとめ			
	13	(グ) コードとカデンツの確認			28	総復習			
	14	豊岡課題確認レッスン			29	総復習			
	15	総復習			30	総復習			
成績評価基準		実技試験点80％ 授業状況点20％							
使用テキスト		「こどものうた伴奏大全集」自由現代社「実用こどもの歌曲200選」ドレミ楽譜出版社							
実務経験		当該教員は保育園の他、ピアノ教室、リトミック教室での勤務経験がある。							

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
生活支援技術A	介護ふくし学科	1	通年	150	演習	大内千秋・國谷千春
	専攻コース					
【授業の目的・目標・授業の進め方方針】						
・尊厳の保持の観点から、どのような状態にあってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する						
【試験の内容・方法(評価の方法)】						
・学科試験・実技試験						
・授業態度						
【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】						
文献名	編著者名	出版社名	出版年月日	価格		
最新	介護福祉養成講座	中央法規	2019. 3. 31	2200円(税別)		
生活支援技術 I II						

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法		
回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
1	生活支援の理解①	介護者としての心構え生活支援の基本的な考え方
2	生活支援の理解②	生活支援の介護過程・ICFの視点に基づく生活支援・チームアプローチ
3	居住環境の整備①	住まいの役割と機能・生活空間
4	居住環境の整備②	快適な室内環境・安全に暮らすための生活環境・高齢者や障害者の住まい
5	ボディメカニクスの理解	ボディメカニクスとは(DVD)・廃用症候群とは
6	休息・睡眠の介護	休息・睡眠とは・休息・睡眠の介護
7	寝具の整え方①	ベッドの機能について・シーツのたたみ方・ベッドメイキング(実技)
8	寝具の整え方②	一人で行う・二人で行うベッドメイキングについて(実技)
9	寝具の整え方③	シーツ交換(ベッド上に利用者が寝ている場合の交換等)(実技)
10	移動の介護①	移動・移乗の基本的理解・姿勢・体位変換の介助・褥瘡の予防
11	移動の介護②	ベッド上の移動(上方・水平・対面法・背面法・長座位・端座位等)(実技)
12	移動の介護③	車椅子の構造・操作の仕方・ベッドから車椅子(実技)
13	移動の介護④	車椅子屋外体験・車椅子からベッドへの着床介助(実技)
14	復習	シーツ交換・移動・移乗
15	実技試験	ベッドメイキング・シーツ交換

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
生活支援技術A	介護ふくし学科	1	通年	150	演習	大内千秋・國谷千春
	専攻コース					

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法

回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
16	実技試験②	移動・移乗の介護
17	移動介護	移動・移乗の介護移乗のための道具・用具
18	歩行の介助①	歩行の介助(2動作歩行・3動作歩行)のポイント
19	歩行の介助②	歩行の介助(実技)
20	福祉用具の意義	生活支援における福祉用具の重要性について
21	着脱介護①	衣服のもつ役割、利用者の状態に応じた着脱介助の視点
22	着脱介護②	浴衣の着方、たたみ方(実技)
23	着脱介護③	開きパジャマ(ベッド上、椅子)(実技)
24	着脱介護④	かぶりパジャマ(ベッド上、椅子)(実技)
25	着脱介護⑤	復習
26	実技試験	衣服の着脱
27	食事の介護	食事の意義と目的・咀嚼と嚥下について
28	食事の介護	自立に向けた食事の介護・利用者の状況に応じた食事介助の方法
29	食事の介護	食事の介護における他職種との連携(誤嚥・脱水・口腔ケア等)
30	食事の介護	食事体験(とろみ・吸い飲み・左手で目隠しをして食べてみる)

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
生活支援技術A	介護ふくし学科	1	通年	150	演習	大内千秋・國谷千春
	専攻コース					

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法

回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
31	口腔ケアの介護	口腔ケアの重要性・口腔体操の効果について
32	口腔ケアの介護	歯磨き・口腔の清拭法・実施時の留意点(体験)
33	体験学習のまとめ	食事体験・口腔ケア等
34	排泄の介護	排泄の意義・目的・排泄の仕組みについて
35	排泄の介護	自立した排泄介護について
36	排泄の介護	ポータブルトイレ・尿器・差し込み便器の介助(実技)
37	排泄の介護	オムツの介助(実技)
38	排泄の介護	排泄介護の復習(実技)
39	排泄の介護	実技試験
40	前期の復習	ベッドメイキング・シーツ交換(実技)
41	前期の復習	移動・移乗の介護(実技)
42	前期の復習	着脱介護(実技)
43	前期の復習	排泄介護(実技)
44	実技試験	
45	学科試験	

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
生活支援技術A	介護ふくし学科	1	通年	150	演習	大内千秋・國谷千春
	専攻コース					

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法

回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
46	前期の復習 ①	学科の復習
47	前期の復習 ②	実技の復習
48	身じたくの介護	身じたくの意義・目的(洗面・整髪・ひげそり・爪の手入れ・耳の清潔)
49	清潔保持の介護①	入浴・清潔保持の意義・目的・入浴の種類
50	清潔保持の介護②	入浴の介護の留意点
51	清潔保持の介護③	入浴・清潔保持の意義・目的清潔保持のための福祉用具について
52	清潔保持の介護④	洗髪・足浴(洗髪器作り、ベッド上で洗髪体験)
53	清潔保持の介護⑤	入浴・清潔保持の意義・目的清潔保持のための福祉用具について
54	清潔保持の介護⑥	入浴に関連した他職種連携
55	終末期の介護①	人生の最終段階の意義と介護の役割
56	終末期の介護②	人生の最終段階におけるアセスメントの視点
57	終末期の介護③	人生の最終段階における介護
58	復習①	ボディメカニクスを使った移動・移乗(ベッド上の移動・ベッドからの移乗)
59	復習②	ボディメカニクスを使った移動・移乗②(杖・ガイドヘルプ)
60	復習③	着脱(浴衣・パジャマ)

シラバス

科目名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担当者
生活支援技術A	介護ふくし学科	1	通年	150	演習	大内千秋・國谷千春
	専攻コース					

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法

回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
61	復習④	着脱(椅子での着替え・かぶり)
62	復習⑤	排泄(便器・ポータブルトイレ)
63	復習⑥	排泄(おむつ交換)
64	国家試験対策	過去問題・予想問題を解いて解説①
65	国家試験対策	過去の実技試験 3事例①
66	国家試験対策	過去問題・予想問題を解いて解説②
67	国家試験対策	過去の実技試験 3事例②
68	国家試験対策	過去問題・予想問題を解いて解説③
69	国家試験対策	過去の実技試験 3事例③
70	国家試験対策	過去問題・予想問題を解いて解説④
71	国家試験対策	過去の実技試験 3事例④
72	国家試験対策	過去問題・予想問題を解いて解説⑤
73	国家試験対策	過去の実技試験 3事例⑤
74	実技試験	
75	学科試験	

※ 当該教員は、高齢者介護事業所での勤務経験がある

シラバス

科 目 名	学科	年次	期間	時間	区分	担 当 者
コミュニケーション技術	介護ふくし	1	通年	60	講義	岩田 健
【授業の目的・目標・授業の進め方方針】						
介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
【試験の内容・方法(評価の方法)】						
出席を不可欠の前提としたうえで、定期試験の成績にレポート等の成績を加味して総合的に評価し、60点以上の者に単位を認定する。						
【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】						
文献名	編著者名	出版社名	出版年月日	価格		
新・介護福祉士養成講座 第5巻『コミュニケーション技術』 中央法規出版						

授業計画

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法		
回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
1	授業オリエンテーション	本講義の概要説明,受講上の留意点,成績評価の方法など
2	講義	介護におけるコミュニケーションとは
3	講義	介護におけるコミュニケーションの役割
4	講義	介護における生活支援とコミュニケーション
5	演習	ジョハリの窓
6	講義	話を聞く技法
7	講義	利用者の感情表現を察する技法
8	講義	利用者の納得と同意を得る技法
9	講義	質問の技法
10	講義	相談・助言・指導の技法
11	講義	利用者の意欲を引き出す方法
12	講義	利用者と家族の意向を調整する技法
13	講義	複数の利用者がいる場面でのコミュニケーション技術
14	演習	グループ回想法
15	前期試験	

シラバス

科 目 名	学科	年次	期間	時間	区分	担 当 者
コミュニケーション技術	介護ふくし	1	通年	60	講義	岩田 健

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法

回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
16	講義	コミュニケーション障害の理解
17	講義	コミュニケーション障害の理解
18	講義	コミュニケーション障害のある利用者への対応
19	講義	コミュニケーション障害のある利用者への対応
20	講義	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際
21	講義	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際
22	講義	チームのコミュニケーション
23	講義	チームのコミュニケーション
24	講義	記録
25	講義	記録
26	講義	報告・連絡・相談
27	講義	報告・連絡・相談
28	講義	会議
29	講義	会議
30	後期試験	

※当該教員は、高齢者、障害者介護事業所での勤務経験の他、家庭支援員としての相談業務等の勤務経験がある

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
補強運動理論・実際	健康スポーツ学科 コース	1年次	通年	60時間	講義	綿引 里紗
【授業の目的・目標・授業の進め方方針】 目的:座学を通して運動のあり方、実技を通してコミュニケーション能力・実践的な知識を身に着け 目標:筋力トレーニング・有酸素トレーニングのあり方・指導法・トレーニングメニューを作成できる。 授業の進め方:実践多めに行う						
【試験の内容・方法(評価の方法)】 前期:筆記試験 後期:実技試験						
【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】 文献名 編著者名 出版社名 出版年月日 価格 健康運動実践指導者養成用テキスト						
【授業計画】 各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法						
回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法				
1	OR (教室)	自己紹介・授業の理解・前期の目標1人1人の将来への認識				
2	体験プログラム(アリーナ)	レジスタンストレーニングとは				
3	レジスタンスとは(教室)	レジスタンストレーニングとは①				
4		②				
5	テスト	確認テスト				
6	有酸素トレーニング(FT)	マシーンの使い方・指導方法				
7	筋肉様式(教室)	筋肉様式の理解				
8	筋力トレーニング(FT)	筋力トレーニングとは・・・、マシーンの使い方・指導法				
9	筋力トレーニング(FT)	ダンベルトレーニング				
10	筋力トレーニング(山新)	筋力マシン&有酸素マシーンの使い方と効果				
11	テスト	確認テスト				
12	コミュニケーション(FT)	指導しながらコミュニケーションを学ぶ(サーキット・チューブ等)				
13	トレーニング	筋力トレーニング指導				
14	テスト対策(教室)	前期試験対策				
15	前期試験					

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
補強運動理論・実際	健康スポーツ学科 コース	1年次	通年	60時間	講義	綿引 里紗

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法		
回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
16	OR(教室)	授業の理解・後期の目標
17	筋様式(教室)	筋様式のおさらい
18	メニュー作成方法(教室)	トレーニングメニュー作成方法・W-UP・C-DOWNも簡単に・・・
19	実践①(FT)	課題を与えトレーニングメニューを作成(自分)
20		作成したメニューで実践
21		作成したメニューで実践
22		作成したメニューで実践 19～23はトレーニングを続けて結果を見る
23	RADICAL(アリーナ)	RADICAL POWER CADIO60
24	実践②(アリーナ)	課題を与えトレーニングメニューを作成
25		実践①で行った反省をもとに他の人に指導をする(クラス)
26		作成したメニューで実践
27		作成したメニューで実践
28		作成したメニューで実践
29	テスト対策(FT)	後期試験対策
30	後期試験	

※当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。

シラバス

科 目 名	学科・専攻	年次	期間	時間	区分	担 当 者
アスリートリハビリテーション	健康スポーツ コース	1	半期	30	講義	宮本 隆宏

【授業の目的・目標・授業の進め方方針】
アスレティックリハビリテーションの基礎知識・技術の習得

【試験の内容・方法(評価の方法)】
筆記試験、実技試験、小テスト、授業態度

【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】
文献名 編著者名 出版社名 出版年月日 価格

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法

回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
1	オリエンテーション	自己紹介,授業の進め方について
2	解剖学の基本的な知識 外傷と障害	動きの基本面・基本軸、関節の動き,外傷と障害の違い,発生メカニズム
3	受傷～競技復帰まで	RICE処置,アスレティックリハビリテーションの流れ
4	足関節 リハビリテーションプログラム	足関節のリハビリテーション
5	下腿 リハビリテーションプログラム	下腿のリハビリテーション
6	膝関節 リハビリテーションプログラム	膝関節のリハビリテーション
7	大腿 リハビリテーションプログラム	大腿のリハビリテーション
8	股関節 リハビリテーションプログラム	股関節のリハビリテーション
9	腰部 リハビリテーションプログラム	腰部のリハビリテーション
10	腹部 リハビリテーションプログラム	腹部のリハビリテーション
11	頸部 リハビリテーションプログラム	頸部のリハビリテーション
12	肩関節 リハビリテーションプログラム	肩関節のリハビリテーション
13	肘関節 リハビリテーションプログラム	肘関節のリハビリテーション
14	手関節 リハビリテーションプログラム	手関節のリハビリテーション
15	後期テスト	筆記試験

※ 当該教員は、茨城県サッカー協会専属トレーナーとしての勤務経験がある。

シラバス

科 目 名	学 科	年 次	期 間	時 間	区 分	担 当 者
ストレングストレーニング	健康スポーツ	2	前期	30	演習	大金 広幸
【授業の目的・目標・授業の進め方方針】 ・ストレングストレーニングの基礎を学び、実践・指導できるようになることが目的 ・座学と実技の両方を行う ・生徒によるプレゼンテーションも行い、人前で指導するスキルを養う						
【試験の内容・方法(評価の方法)】 ・学期末に実技試験を実施 ・評価は、A(90%～)B(80～89%)C(70～79%)D(60～69%)						
【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】 文献名 編著者名 出版社名 出版年月日 価格 NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識 日本ストレングス&コンディショニング協会						

【授業計画】

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法		
回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
1	授業の説明	シラバス、授業、実技試験の説明
2	解剖学	筋肉の構造
3	骨格筋の構造	筋、神経、骨格系の構造と機能
4	エネルギー供給機構	ATP-PCr系、解糖系、有酸素系
5	バイオメカニクス	筋力とパワー
6	レジスタンストレーニングへの適応	適応とオーバートレーニング
7	有酸素性トレーニングへの適応	基本的な適応と各要素の変化
8	トレーニング変数	プログラムデザインのための基礎
9	プログラミング	プログラムデザイン
10	実技	エクササイズの説明と実技(肩)
11	実技	エクササイズの説明と実技(上腕)
12	サプリメント	身体作りの栄養について
13	実技	エクササイズの説明と実技(腕)
14	実技	エクササイズの説明と実技(体幹)
15	前期試験	実技試験

※ 当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。

シラバス

科 目 名	学科	年次	期間	時間	区分	担 当 者
フィジカルトレーニング	健康スポーツ	2	前期	30	演習	大金 広幸
【授業の目的・目標・授業の進め方方針】						
・フィジカルトレーニングの基礎を学び、実践・指導できるようになることが目的						
・座学と実技の両方を行う						
・生徒によるプレゼンテーションも行い、人前で指導するスキルを養う						
【試験の内容・方法(評価の方法)】						
・学期末に実技試験を実施						
・評価は、A(90%～)B(80～89%)C(70～79%)D(60～69%)						
【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】						
文献名	編著者名	出版社名	出版年月日	価格		
NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識 日本ストレングス&コンディショニング協会						

授業計画

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法		
回	テーマ	授業内容と方法
1	授業の説明	シラバス、授業、実技試験の説明
2	イントロ	ファンクショナルとは
3	柔軟性トレーニング	利点や要因、タイプについて
4	自重エクササイズ	自重エクササイズ・スタビリティボールエクササイズ
5	ウォーミングアップ	ウォーミングアップの重要性
6	レジスタンストレーニング	エクササイズテクニックのガイドライン
7	実技	エクササイズの説明と実技(胸)
8	実技	エクササイズの説明と実技(背中)
9	実技	エクササイズの説明と実技(脚)
10	プライオメトリックス	スピードトレーニングとパフォーマンス
11	プライオ実技	スピードトレーニングとファンクショナルトレーニング
12	実技	エクササイズの説明と実技(胸・背中・脚)
13	プレゼンテーション	生徒のプレゼンテーション、指導と洞察
14	プレゼンテーション	生徒のプレゼンテーション、指導と洞察
15	前期試験	実技試験

※ 当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。

シラバス

科 目 名	学科	年次	期間	時間	区分	担 当 者
介護予防運動指導	健康スポーツ	2	前期	30	演習	石田 しのぶ
【授業の目的・目標・授業の進め方方針】 介護予防運動の必要性を知り、運動内容を学び、指導をする力をつける。						
【試験の内容・方法(評価の方法)】 実技及び筆記試験で評価 授業態度も評価						
【使用テキスト(学生全員に購入させる書籍資料等)】						
文献名	編著者名	出版社名	出版年月日	価格		

授業計画

各回の授業項目(テーマ)とその内容及び方法		
回	テーマ	授 業 内 容 と 方 法
1	オリエンテーション	アンケート、介護予防運動実技
2	介護予防指導論	おさらい
3	介護予防運動・実践	筋肉を学ぶ
4	介護予防運動・実践	高齢者に多い障害を学ぶ
5	介護予防運動・実践	予防運動(上肢)
6	介護予防運動・実践	予防運動(下肢)
7	介護予防運動・実践	予防運動(体幹)
8	運動指導の実践	実技
9	運動指導の実践	実技(プログラム作成)
10	運動指導の実践	〃
11	運動指導	発表及び試験
12	ストレッチ	
13	レクリエーション	認知症予防、シナプソロジー
14	試験対策	
15	前期試験	

※ 当該教員は、スポーツインストラクターとしてスポーツクラブでの勤務経験がある。